

民報

おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
59番地
Tel 24-2021
Fax 24-2049

早く 新しい みんなの病院を！

市議会
9月定例会

9月6日、7日、奥州市議会9月定例会一般質問において日本共産党の瀨川貞清、佐藤美雪両議員は「新医療センター」や「学校給食費の値上げ」などについて、当局の見解を質しました。



「新医療センター」構想の
進捗状況は？

瀨川貞清議員は、市が発表した「地域医療奥州市モデル」で提起した「新医療センター」の検討が、どこまで進んでいるかについて質問しました。

検討の場として「新医療センター検討懇話会」を新たに設置

これに対し市長は、「検討するにあたっては、専門家や市民から意見を聞くこととしている。専門家から意見を聞く場としては従来からある地域医療懇話会を考えている。市民目線、利用者目線での意見聴取や議論をする場として『新医療センター検討懇話会』とする外部検討組織を新たに設置することとした。委員には社会福祉協議会や民生児童委員連合協議会などの団体

からの推薦者のほか、公募の委員で構成することとしている。初回の会議は10月初めの開催を予定している」と答えました。

市の計画案の公表と市民議論について

瀨川議員は、さらに市の計画案の公表と市民議論の在り方として、過去の計画作成の際はパブリックコメントに際しても全く採用されず、「アリバイ的だ」という批判があったことなどを指摘し、その改善を求めました。

市民議論の成果を十分に

反映させたい

これに対し市長は、「基本的な考え方をまとめた基本構想とそれに基づく具体の整備内容を表す基本計画を策定することになる。それぞれの素案を検討するにあたっては検討懇話会や出前説明会のほか、パブリックコメントや広く市民の意見を聞く機会を設けるなど、市民議論の成果を十分に反映させたいと考えている。そのために

は正しく理解していただく必要があると考えており、基本構想や基本計画の素案を適切な時期に速やかに公表するとともに、その公表の仕方についてもQ&A形式やイラスト、動画を活用するなどなるべく具体的なイメージが伝わるように工夫したい」と答えました。

周産期医療の計画を！

瀨川貞清議員は、また、計画に周産期医療の計画がないことをめぐって、引き続き、市民要望が強いことから、その計画を盛り込むことについての見解を求めました。

これに対し、倉成市長は「市内で分娩できるようにするために、複数の医師や助産師等のチーム体制が必要であり、すぐには実現が難しい状況。タクシー助成や宿泊助成などを行いつつ妊婦検診を可能な限り地元でできるようにするなど、周産期母子医療センターとの連携強化を図り安心して出産できる環境を整えていく。新医療センターに分娩施設を設けることは容易ではないが市内での分娩を決してあきらめたわけではない。将来への布石として、どのような機能があればいいのか、基本構想や基本計画を策定する中で検討し、可能なものについては計画に反映していきたいと考えている」と答えました。

いま、学校給食費の値上げは
すべきでない



佐藤美雪議員は、物価高騰による学校給食食材費の値上げについて来年度からの実施を検討している教育委員会の方針を質しました。

値上げの一つの根拠とされたのが、6月に行われた小中学生の保護者を対象とした給食に関するアンケートにおいて「学校給食の質と回数を保つためなら値上げもやむを得ない」という回答が約8割あったことでした。

佐藤議員は、「アンケートは、『値上げ』か『給食回数を減らす』かの二者択一であった。これは、保護者の本当の思いが反映されていない。追い詰めるものだ」と質しました。

二者択一だが、保護者の
意識が知りたかった…

教育長は、アンケートの設問について「学校給食運営協議会において決定したもの。保護者の意識をはかるために行った。ご理解いただきたい」と答えました。

教育委員会は子育て世代の
切実な思いに寄り添って！

佐藤議員は、「アンケートには保護者の思いが書かれている。『物価高騰だが、給与は上がっていない。家計もひっ迫している。市にはしっかりと考えてほしい。』との声がある。教育委員会は市当局としっかりと議論を」と迫りました。

待機児童対策に公立保育施設
が先頭に立って取り組むべき

次に佐藤議員は、みなみ保育園が計画より1年早く開園する方針について、「9月1日現在、待機児童が31名いるとのこと。保育の必要なお子さんを受け入れるためにもみなみ保育園など、公立保育施設が責任を持って対応すべきではないか」と、当局を質しました。それに対し、市長は「公立で、ということだけでなく民間保育施設での対応にも支援していく方針。来年4月に水沢と胆沢地域で保育施設が開園予定である。待機児童の受け入れが可能であると考える」と述べるにとどまりました。

